

キリスト教史学会第75回大会
公開シンポジウム

大東亜共栄圏とキリスト教
戦時期東アジア地域における教会合同運動

満洲基督教会について
その成立過程を中心に

渡辺祐子(東北学院大学)

今日の報告の内容

1. 19世紀半ば以降の中国東北部におけるキリスト教伝道の概略

- ・ 1860年代～
- ・ 日露戦争後～
- ・ 満洲国成立(1933年)後～

2. 教会合同までの経緯

- ・ 日本基督教団成立まで
- ・ 日本基督教団成立後
- ・ 日米開戦後

3. 満洲基督教会とは？

4. おわりに 「満洲国」消滅後の教会



From Wikimedia Commons

I. 中国東北部におけるキリスト教(プロテstant)伝道の概略

I) 1860年代末～

プロテstant伝道を担ったのはスコットランド、アイルランド2大長老教会

The Presbyterian Church in Ireland 1869年～

營口・法庫門・錦州・朝陽・新民・奉天・寬城子等37拠点

Church of Scotland 1871年～

營口・海城・遼陽・奉天・朝陽鎮・鉄嶺・開原・呼蘭等41拠点

1922年調査

Irish Church : 9,000 / Scots Church : 10,000 / Lutheran Church (Danish) : 1,400

I. 中国東北部におけるキリスト教(プロテstant)伝道の概略

2) 日露戦争～

関東州を中心に日本人教会の設立が始まる

- 中国人教会との交流はほとんどない
- 日本人牧師と宣教師、中国人牧師はある程度の交流をもつ

1907年、長老教会(中国人教会)の中会が関東大会を設立

→中華基督教会(1927年に正式成立する超教派の教会)に加盟

1920年代以降も、外国ミッショングが新たに伝道開始。

I. 中国東北部におけるキリスト教(プロテstant)伝道の概略

3) 「満洲国」成立以後

1930年代 朝鮮族の教会含め、19のプロテstant教会(日本人教会は含まず)

→ 「満洲国」政府により、中華民国の教会との関係断絶。

1933年、「満洲伝道会」成立。「満人」を伝道対象とする。

1935年ごろから、教会に対する圧力が徐々に強まる。

— 長老教会指導者の大量検挙

— ミッショント・スクールに対する孔子祭参加(孔子廟参拝)強制

2. 教会合同まで

I) 日本基督教団成立まで

*「満洲国」の教会人を日本視察に派遣

1934年、1937年、1940年

1940年の視察：奉天の東閏教会牧師、胡成国が10月17日「皇紀二千六百年奉祝全国基督教信徒大会」に参加。「吾等ハ全基督教会合同ノ完成ヲ期ス」

*宗教管理法「暫行寺廟及布教者取締規則」制定（1938年9月）

*文教部主導で「満洲基督教連合会」を結成（1938年12月）

2. 教会合同まで

2) 日本基督教団成立後

「満洲国」に満州支部を置き、支部長に石川四郎（日本基督教団宣教師）

* 石川の働きと、宣教師の石川評価

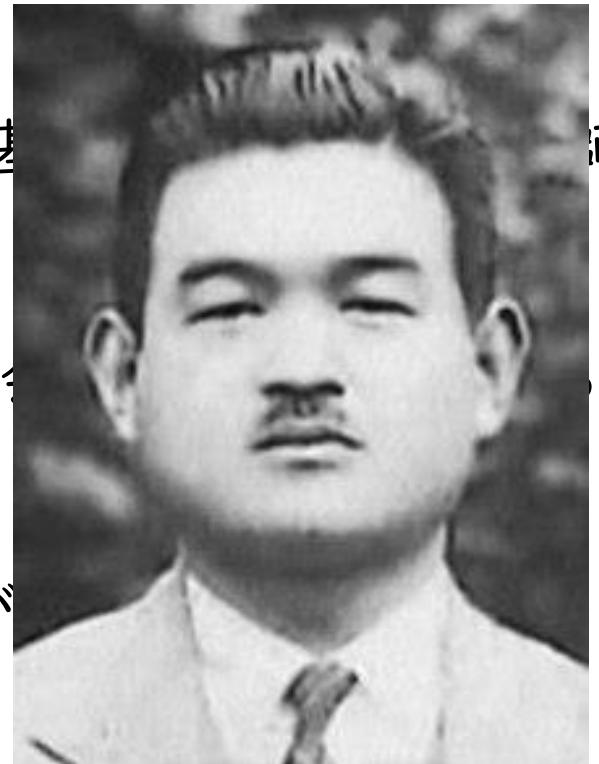
「普遍的な教会とは全く異なる、国家主義的で偏狭な教会である」と評された。

* 「満洲国協和会」と日本人キリスト教指導者のつながり

愛新覚羅溥儀を総裁とする行政の補完組織

会員のキリスト教指導者を通して教会合同に関与。

このころ満洲の神学校は、日本人指導者の管轄下に置かれており、そこで教会合同の必要性が説かれていた。



2. 教会合同まで

3) 日米開戦後

* 辛うじて日本人指導者の行き過ぎの歯止めとなりえた宣教師が被抑留・集団帰国。

1941年12月17日、それまで宣教師が参加していた満洲基督教長老会教務委員会が臨時措置委員会に再編され、石川が委員長に就任、全権を掌握。

* 1942年1月、合同準備委員会設置@新京。

5月の準備委員会開催時、建国神廟を「訪問」。天照大神に合同進捗を報告。

* 1942年7月、特別大会開催。教会合同を決議。「満洲基督教会」の誕生。

3. 満洲基督教会

- ・代表 奉天東関教会牧師胡成国(実質的な支配権は石川が握る)。
- ・15教派が参加(教会、伝道所500、牧師、伝道師400)
- ・「満洲国」を9教区に分割。教区代表の大半は、長老教会の牧師。副教区長は日本人。
例えば、熱河省と錦州省は錦州教区に。副教区長は福井二郎。
- ・1943年3月には文教部に財団法人登録を申請。
- ・1943年10月19日、第1回総会開催。
文教部役人、協和会文化部長出席。総務部長石川の「満洲基督教会」設立宣言。
5項目の決議文採択。
吾等は建国の理念を宣揚し、誠意を尽くして国民の思想を善導し、民の気風の
作興、善良な民族の育成、東方道義の理想を実践する……

おわりに 「満洲国」解体後の状況

「満洲国」解体に伴って、満洲基督教会も雲散霧消。

満洲基督長老会牧師で、教会合同に全面協力した李延魁の述懐(1946年)

「私は胡成国牧師や石川総幹事の言いなりだった。…この3年5か月は、東北の教会にとって特殊な時代だった。」

満洲基督長老会の場合。中会再建は1946年3月ごろから着手。

1946年4月2日、スコットランド教会、アイルランド長老教会の宣教師訪問団が奉天着。

教会合同期の状況、合同による影響を聞き取り。

大歓迎会開催。唯一、平野一城奉天メソジスト日本人教会牧師だけが招待された。



東關教会@瀋陽(現在は三自愛国教会)

Moukden Church, John Rossがここで聖書の朝鮮語訳に取り組む